

# 春彼岸追悼回向文

敬つて真言教主大日如来、りょうぶかいえ 两部界会、しょうじゆこと 諸尊聖衆殊に総じては

東方山安養寺本尊薬師如来、当観音堂本尊観世音菩薩にもう白して

もう言さく。

伏して惟みるに当山の地たるや東方山山腹かごんの佳巖は微妙の瑞相

を示し、瑞雲恒つねに掩おほつて靈光永とこしえに輝き渡る。是まさに観音示現じげん

の梵刹ぼんさつ、優留曼荼ゆうるまんだの聖地なり。琵琶湖湖南にあつて古来より観音

弘誓ぐぜいの深きこと大悲の恵みの高きことを示さる。ここを以つて聖武

天皇は良弁僧正をつかわされ、七堂伽藍を建立し給い、勅願寺と

定め天長地久てんちようちぎゆう国家鎮護ちんごの道場となし賜うものなり。

本日春彼岸を慎はるしんで迎えるの至り、季節は疾風嚴しき冬の峠

を越え、春風春水こつとき一時に來たりて、天地万物の息使いを感じる躍

動の時期に入るものなり。

このおり先徳は娑婆しゃばの「此岸」しがんから仏の心満ち満ちあふれし「彼岸」

へ、煩惱の火が燃え立つ娑婆をぬけ出し、仏性ぶつしょう菩提ぼだいの心で開かれ

た彼岸を子孫に残すべく季節の行事として取り入れたもう。ここに

煩惱即菩提の心の転換ぼんのうそくぼだい、仏性の再発見をいつの世にも求め続けよう

との智慧が働くものなり。

安養寺においても熊谷俊亮任職と先に旅立たれし直子寺族夫人  
が一丸となられ尊い彼岸会の行事を熱心に執り行われ、今日に至る。

まず彼岸会に詣でて本尊さまに出会う。礼拝し經典読誦を聞く。  
仏を念じ仏のみ名を唱える。安養寺ではとくに仏の世界を情緒豊  
かに唱えられるご詠歌が法要にとり入れられ、ご先祖が語りかけるよ  
うな味わいの音律に誘われ、わが心の中の仏性に次々と点火されて  
ゆく。まさに日頃、怠たっている先祖へのご恩報謝をこの国民の祝  
日として与えられた春分の日に実行しよう。手を合わせ七き父のこ  
と、母のこと、祖父母や遠き祖先の靈に思いを寄せ、今日ただ今こ  
こに生かされている自分に感謝しよう。そして先祖の御靈を供養し  
て心を洗おう。お世話になった方にも心を寄せると、明るく素直に  
「ありがとう」の仏性に目覚める。  
ご参詣の御尊台各位の健康増進、家内の繁栄、子孫長久を謹  
しんで祈念し奉る。

## 乃至法界 平等利益

平成二十七年三月二十一日

京都府向日市寺戸町

亀光庵住職

土口哲光敬白